

# 金沢市立明成小学校

## [はじめに]

本校は、金沢駅近くに位置し、平成7年4月に旧瓢箪町小学校と旧此花町小学校が統合して開校した。全校児童は256名(5月1日現在)、職員は29名である。

学校の北側には浅野川が流れ、南側には安江八幡宮や東別院、西別院など由緒ある大きな境内をもつ寺社も数多く見られる。そのため、四季を通じて子ども達が自然を目にする事が出来る。また、西側にはふらっと通りや安江町商店街など歴史と伝統を重んじながらも新しい感覚を取り入れた店舗が軒を連ね、地域の方々は郷土愛に満ちている。

2011年度にユネスコスクールの認定を受け、環境や文化、福祉、国際理解などをテーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

## たくさんの絆をつなごう！

### 1 ユネスコスクールとしての取組

#### ・1年生「きせつとなかよし」

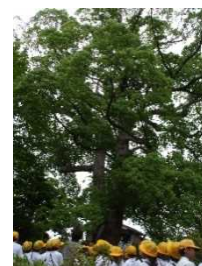
春から秋にかけて一人一鉢でアサガオを大切に育てた。草花で紙染めや色水遊びをしたり、つるでリースを作ったりして楽しんだ。種から育てた草花が季節で変化していく様子を観察し他の草花にも関心を持つことができた。初夏にはビニール袋などを使って風を感じた後で紙飛行機を作って飛ばした。紙の折り方や飛ばし方で様々な飛び方をする様子から自然とかかわる楽しさや不思議さにふれることができた。



2学期はいろいろな種を集め、自分のお気に入りの種を紹介し合った。種類によって種は大きさや形、色、手触りなどが違うことを発見し、その違いを使って様々な遊びを考え出した。「たね遊びブランド」で自分たちが楽しみながら工夫を重ねた後、2年生を招待し、人に楽しんでもらえた満足感を味わうことができた。

#### ・2年生「町をたんけん大発見」

1学期には、自分たちの町を探検し、お気に入りの場所だけでなく、彦三緑地の樹齢400年の大木(自然)やそのお世話をする人、優しいお店の人にも出会い、地域への愛着をより深めることができた。2学期には、地域に住んでいる方々(高齢者・交通安全ボランティア)との交流活動を行った。公民館からの提案で、地域の木工所で作っている太鼓のぼちを活かした「ぼちこけし」を作った。子ども達は、公民館で同じ机に座った地域の方と一緒に、こけしの体の模様や顔の表情をどんな風にするかを話したり、できあがったものを褒めていただいたりしながら、楽しく絵付けをしていた。



その後、地域の方々を学校に招待し、なかよし交流会を行った。子ども達が企画運営をし、司会進行も務めた。子ども達は、地域の方と仲良くなるにはどうすればいいか考え、昔遊びを取り入れた。名前を覚えて話しかけ、コツを教えてもらい、できるようになった時には一緒に喜びながら距離感を縮めていった。なかよし交流会を通して、地域に住む人のステキなところにも気づき、明成校区の良さを改めて実感できた。

#### ・3年生「伝統を学ぼう」

社会科の校区探検を通して地域の良さにふれた後、校区内にある和菓子屋さんに依頼し、和菓子作りの体験を行った。和菓子を自分で作ることで、その苦勞を知るとともに、楽しさも味わうことができた。和菓子への興味・関心が高まったおり、「氷室まんじゅう」ののぼり旗を見つけ、金沢の伝統文化の一つである「氷室」の学習を行った。



また、地元の有名な神社である安江八幡宮の、秋祭りで行われる獅子舞に参加する児童の経験談を導入にして、「加賀獅子舞」について学習を深めた。歴史や獅子舞保存会の方々の思いや願い、使用する道具など、

さまざまな角度から調べたことをまとめて全校児童の前で学習発表を行った。学習を深めるうちに、児童は、北陸新幹線が開通したら東京やいろいろな場所で獅子舞を披露し、金沢の伝統文化を伝えていきたいという願いを持った。

#### ・4年生「ひょうたん・探・タン♪」

校舎1階のグリーンカーテンとして、アサガオとヒョウタンを栽培した。4月下旬、土を耕し施肥を行い、5月上旬に苗を植え、当番を決め、登校後や休み時間に水やりや草抜きを毎日続け世話をした。夏休み中も当番を組み、朝・夕の1日2回、水やりや草抜きを続けた。土曜日と日曜日には、地域のグリーンボランティアの方と一緒に、栽培を続けた。その成果として、アサガオとヒョウタンの葉が茂り、1階理科室横と玄関には影ができ、グリーンカーテンとして室温を下げる効果が見られた。



夏休み明けには、グリーンボランティアの方にお礼をし、ヒョウタンの生長を喜び合った。秋には、ヒョウタンは大小様々な実をつけた。また、理科の学習と関連させて、ヒョウタンの様子を観察し、一人一人がその生長の様子を学ぶことができた。実ったヒョウタンで楽器や人形を作るなど、ヒョウタンの形状に合わせた思い思いの作品作りを楽しむこともできた。

#### ・5年生「広げよう ボランティアの輪を」

「困っている人のために自分たちにできることはないかな」と考え、古切手、ペットボトルキャップ、プラタブ、書き損じはがき、古着、ベルマークの回収を行った。また、バザーの際に募金活動を行ったり、秋には落ち葉掃き、冬には除雪作業をしたりした。子ども達は、友達と相談したりインターネットで調べたりして活動内容を決めた。グループごとに全校集会で呼び掛ける内容を考え発表するポスターを作る、回収状況を知らせる新聞を発行するなど、より多く回収するための工夫を考えて活動した。当初あまり集まらなかったため、相談して回収ボックスのデザインや置き場所を工夫しているグループもあった。



初めは「面倒くさい」「大変だからやらなくてもいいと思う」と言っていた子ども達もいた。しかし、回収した物をワクチン等と変えたり、困っている国に送ったり、除雪作業などでお礼を言われたりすることで、ちょっと大変でも自分たちにできているという達成感や喜びを味わうことができた。今後は、その経験を生かして社会に貢献できればと考える。

#### ・6年生「伝統工芸にふれていく(加賀毛針)・卒業式胸章づくり」

校区で加賀毛針づくりを传承されている、「目細八郎衛商店」の店主・目細勇治さんにご来校いただいた。地域の伝統工芸については4年生で学習しているが、まず、江戸時代の武士のたしなみから始まった「加賀毛針づくりの歴史」を紹介していただいた。それとともに、技術を受け継いでいくことや制作そのものに対する思いをお聞きすることができた。



基本的な作り方の説明の後、子どもたちは毛針と同じ羽毛を用いた材料を使って胸章づくりに挑んだ。様々な大きさや模様、色合いの材料から、各自思い思いのものを選び、オリジナルの作品を作り上げることができた。友達と作品を見せ合う中で、加賀百万石の伝統から受け継がれる技術に惹き入れられるとともに、間近に迫った卒業式にも思いを馳せているようであった。

## 2 成果と課題

各学年とも生活科や総合的な学習の時間を中心として、各教科での学びにつなげたり、広めたりしながら活動を進めていった。その結果、人や地域とのつながりを深めることができ、直接に体験しながら学びを積み重ねることができた。また、今年度は、活動の内容を全校に伝える場を持つことができた。さらに、外部に働きかけることで、学びを実感することができたことも成果といえる。

今後の課題として、学校全体としての取り組みのさらなる共有化や人材の発掘、他校との交流、時数の確保などがある。今後もESDカレンダーの見直しを行いながら、他教科との関連をより一層深め、学びの力を伸ばしていきたいと考えている。